

各位

コネクティング・クライメート・マインズ (Connecting Climate Minds) 参画について

特定非営利活動法人日本医療政策機構（HGPI: Health and Global Policy Institute）（事務局：東京都千代田区、代表理事：黒川清）は、ウェルカム・トラストによって資金提供されているグローバルイニシアティブ「コネクティング・クライメート・マインズ（Connecting Climate Minds）」に参画しました。このイニシアティブは、世界各地の研究、政策、デザイン、実体験の専門知識を結集させ、気候変動とメンタルヘルスの関連を持つグローバルおよび地域コミュニティの召集者による研究と行動のアジェンダを開発することを目的としております。

気候変動と気温の上昇により、大気中のアレルゲンや汚染物質の濃度が増加し、その結果、大気の質が悪化することが明らかになっています。最新の研究結果によれば、大気の質が悪化することでメンタルヘルスに悪影響を与える可能性があり、特にうつ病や不安障害などに影響を及ぼす可能性が示唆されています。2022年2月に発表された気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の報告書には、気候変動の急激な進行が、精神的苦痛から不安障害、うつ病、悲嘆、自殺行動にいたるまで、メンタルヘルスと心理社会的な健康に対する脅威を高めていることが報告されています。

当機構は、「コネクティング・クライメート・マインズ」プロジェクトに地域共同召集者（RCC: Regional Co-Convenor）として参画し、東アジアおよび東南アジア地域の召集者であるフィリピンのセントルークス・メディカルセンター医科大学のサポートを行います。また、さまざまな地域と学問分野の地域共同召集者と協力して、地球規模でつながりのある、サポートされた、参加型の実践コミュニティを育成することを目指し、行動可能な研究議題を作成します。

このプロジェクトの目標は以下のようになります：

- グローバルな研究議題を作成すること
- 気候変動という文脈の中で、メンタルヘルスの課題を実際に経験した人々のニーズに根ざした研究を行うこと
- 一連の地域的・グローバルなダイアログを実施すること
- オンライン・プラットフォームで私たちの活動を共有し、リソースを収集すること

「コネクティング・クライメート・マインズ」の活動については[こちら（英語のみ）](#)を、地域コミュニティ召集者については[こちら（英語のみ）](#)をご覧ください。

■日本医療政策機構とは：

2004年に設立された非営利、独立、超党派の民間の医療政策シンクタンク。市民主体の医療政策を実現すべく、中立的なシンクタンクとして、幅広いステークホルダーを結集し、社会に政策の選択肢を提供しています。特定の政党、団体の立場にとらわれず、独立性を堅持し、フェアで健やかな社会を実現するために、将来を見据えた幅広い観点から、新しいアイデアや価値観を提供しています。日本国内だけでなく、世界に向けても有効な医療政策の選択肢を提示し、地球規模の健康・医療課題を解決すべく、活動しています。



プラネタリーヘルスについての詳細などは、当機構のウェブサイトをご覧ください

